

2023年度第4回(2024年第2回) 理事会議事録

日 時：2024年3月15日(金) 14:00～17:00

場 所：トラストシティカンファレンス・京橋
STUDIO2

現地出席者：宇野隆(理事長)、溝脇尚志(専務理事)、
青山英史、有賀久哲、井垣浩、石川仁、
内田伸恵、大西洋、岡嶋馨、小川和彦、
古平毅、佐々木 良平、高橋健夫、
中村和正、村上祐司(以上理事)、
塩山善之(以上監事)、
角田怜子、鈴木弘美、山内蓉子
(以上事務局)

[WEB出席]：大野達也、櫻井英幸、澁谷景子
(以上理事)、
生島仁史 監事(敬称略)

審議事項

1. 前回議事録承認

(溝脇専務理事)

- 前回(2024/1/19)理事会議事録案と、その後の進捗状況が確認され、承認がなされた。
- メール審議2023-02号(2024/3/4-3/6):定款第15条3項「代議員選挙における選挙権・被選挙権は選挙年の3月1日現在の正会員が等しく有する」に基づき、3月7日付け「2024・2025年度代議員選挙」公示を行うため、前回理事会承認以降(2024年1月11日～3月1日)の「正会員入会者22名」の入会承認について、「全員賛成」の回答で可決したことが確認された。

2. 会員の入会他 (溝脇専務理事)

- 1) 入会申請(2024年1月11日～3月7日):計5名[内訳_正会員4名、個人;国際賛助会員1名]であることが報告され、承認された。尚、国際賛助会員(賛助会員:個人)について、規程記載の通り「この法人の事業を賛助するために入会した日本国籍を持たない海外または日本に滞在している医師、医学物理士、診療放射線技師、看護師等をいう」が、名称が分かりにくいいため変更の検討も必要ではないかとの指摘があった。
- 2) 2024年3月7日現在の会員登録状況について下記のとおり説明がなされた。
 - 会員総数:4,351名[内訳_正会員2,287名、准会員1,963名、名誉会員56名、賛助会員39社、国際賛助会員6名]
 - 退会者:11名[正会員5名、准会員6名]
 - 正会員内訳:医師2,073名 歯科医師45名 医師以外169名 (医師比率90.64%)
 - 男女比率:正会員[男性1,833名、女性454名]、准会員[男性1,501名、女性462名]
 - 専門医数:1,442名 [男性:1,168名、女性:274名]
 - 会費納入率:正会員85.79% 准会員78.25%

3. 「代議員定数の増員」に伴う理事数の変更・推薦理事について (宇野理事長/溝脇専務理事)

代議員定数の増員及び事業多角化・増大に伴い、現定款第19条第1項「理事 14名以上20名以内」の範囲内で、現状の最大理事数18名を20名以内に増員すること、また、現細則では、「理事のうち15名は立候補した代議員から選出する、15名の理事は代議員の投票によって選出=選挙による理事数15名」と定めているが、これを17名に変更する案が提案され承認がなされた。

また、現細則には立候補者が定数に満たない13名以下の場合の記載がない事の指摘や、現細則8項の「理事のうち立候補した代議員からの選出に依らない理事3名については、現理事会が専攻分野ならびに地域、性別等の不均一性を調整して推薦した候補者を総会の議を経て理事として決定」について、選挙で選ばれた新理事会で決定するべきではないか等の意見がだされた。現状で定まっていない新理事会に委ね、総会の議を得るのは難しい等の意見もあり、スケジュールの関係で今年度選挙においては立候補以外の理事選出については現行のまま進めることとした。今後は総会等でも広く意見を求めた上で検討すること

と、正式な規約案や記載不足等があるかについては次回理事会までに規約委員会にて検討する旨が確認された。

4. 2021・2022年度研究課題最終報告書

(村上理事)

2021・2022年度研究課題(武者篤会員、富田夏生会員)の最終報告に対する学術委員会による評価が報告され、承認がなされた。なお、昨年の中間報告の際に指摘のあった支出:学会年会費への充当については返還のお申し出があった旨報告された。

5. 第8回施設認定審査(更新)追加合格施設

(小川理事)

第8回認定施設申請の追加審査について、更新対象1施設(第三者機関による出力線量評価が許容期間外→再実施結果、許容)審査結果が説明され、合格の承認がなされた。

6. 海外研修助成事業 協同実施の継続について

(内田理事)

2022年より医用原子力技術研究復興財団との共催で実施していた海外研修助成事業について、第2回事業(公募:2023年9月～12月/研修期間:2024年4月～2025年2月)について、「応募なし」の結果となった旨説明され、第3回事業(公募予定:2024年9月～12月/研修期間:2025年4月～2026年2月)については、財団との協同実施は継続しない(助成金辞退)旨を財団に申し入れすることが承認された。なお、今後は当会単独で事業を継続していく方向が確認された。

7. 第三者出力線量評価認定作業部会

副部会長等の選任について (澁谷理事)

第三者出力線量評価認定作業部会小口宏 現副部会長(日本放射線技術学会指名)の退任のご意向に伴い、新副部会長として、辰己大作会員(日本放射線技術学会指名/現作業部会委員)が推薦され承認された。またこれに伴い、作業部会員1名の補充が必要である旨説明され、規定に基づき部会長より推薦の松尾勇斗会員(北海道大学)が新たな作業部会員として承認された。

8. 「脳腫瘍診療ガイドライン」システマティックレビュー(SR)委員の推薦について/「放射線性顎骨壊死診療ガイドライン」作成について

(井垣理事)

- 2023年7月理事会にて「脳腫瘍診療ガイドライン」SR委員推薦が承認されたが、日本脳腫瘍学会より追加推薦の依頼があり、新たに以下会員を、SR委員として推薦し、計24名とする旨が承認された。

成人膠芽腫診療ガイドライン作成グループ 山品将祥 会員/DIPG 久野修 会員

髄芽腫診療ガイドライン作成グループ 今野伸樹 会員、小倉健吾 会員、相部則博 会員

小児頭蓋内上衣腫診療ガイドライン作成グループ 佐藤吉隆 会員(髄芽腫グループより移動)

- 前回理事会にて提案のあった「放射線性顎骨壊

死診療ガイドライン(仮)」の作成概要(スケジュール、作業分担、CQリスト案等)が提示され、当会が作成主体となり、関連学会へ協力依頼、COI管理等を実施、GL委員会は査読等を分担し、厚労科研全田班は協力団体としてWGの進捗管理、SR推奨作成支援等を担当協力団体として実施・クレジットを希望している旨が説明された。書籍化は難しいため、完成版は当会予算にてコンパクトな冊子体を作成配布すること、厚労科研全田班はSR/推奨作成支援等を行い、論文化等を担当する旨の承認がなされた。

9. 粒子線治療レジストリ (Proton-net、J-CROS) データセンター支援 / 「デジタル原則を踏まえたアナログ規制の見直し方針」を踏まえた保険診療等に係る取扱いについて (櫻井理事)

- 先進医療A実施の粒子線治療について、全例前向き登録・結果解析、報告により疾患毎の保険適応となってきたが、データセンターは陽子線治療Proton-net：北海道大学、重粒子線J-CROS：QST病院の研究資金により運営されてきた。今後は資金面が難しくなることが予測され、粒子線実施施設、当会部会の費用分担、企業への寄附・協賛依頼等の提案がなされた。将来に亘っていつまでの事業になるのか等も含めて引き続き検討していく旨確認された。
- 「デジタル原則を踏まえたアナログ規制(通知・通達等)の見直し方針」を踏まえた保険診療等に係る取扱いについて
先進医療として粒子線治療を行う機関への「訪問調査」に関して、現地訪問の他、メール・Web会議等を利用した調査を当会が行う旨の通知が厚労省より都道府県医療課宛てに発信される旨承認された。

10. データベースへのランサムウェア攻撃について / JROD 共同研究契約の継続について(中村理事)

- QST病院医療情報室が管理している一部のネットワーク(サーバー)において、ランサムウェア被害が発生し、JRODの症例登録データの一部である症例の担当医と指導医の方の個人情報(氏名及び所属施設情報)が漏洩した可能性があることが判明したことが報告された。漏洩した可能性がある該当者へQSTより「お詫び文」送付の対応を進めている旨説明がなされた。
- 2016年より締結の「JROD共同研究契約(JASTRO/QST)」について、2022年以降は、QST内にあったシステム・サーバーを当会の簡易システムに移行し運用しており、現在は、ヘルプデスク、データクリーニング等のJROD事務局業務部分のみ、QSTと共同研究として契約を継続中であるが、本年3月末にてQSTとの本共同研究契約を解除し、2024年8月までは引継ぎ業務を含む委託業務に切替る旨が承認された。

11. 放射線治療専門医資格の返上について (古平理事)

退職に伴う2名の専門医資格返上が承認された。

12. IMRT 臨床的ガイドラインについて (大西先生)

限局性固形癌の定義やIMRTの診療報酬についての記載を追記したIMRT臨床的ガイドライン改訂案が示され、承認されたが、作成委員のCOI、所属等の確認・追記が必要である旨説明された。

13. 令和6年度アイソトープ内用療法講習会の共催依頼につきまして / 日本核医学会学術総会における5学会ジョイントセッションについて (佐々木理事)

- 日本アイソトープ協会からの令和6年度アイソトープ内用療法講習会の共催依頼について、従来から共催を行っていたこと・講演会開催にあたり費用負担はないことが説明され、承認された。
- 第64回日本核医学学術総会(2024/11/7-9)会長より、5学会(JASTRO・日本核医学学会・日本核医学技術学会・日本心臓核医学会・日本不整脈学会)ジョイントセッション「重症不整脈に対する放射線治療」の共催依頼があり、演者(座長案：中村和正理事/演者4名；国枝悦夫会員、若月優会員他)推薦と会員への周知依頼等の協力が承認された。

14. JRR 誌 2025年の購読とAPC価格設定について (佐々木理事)

2025年のJRR誌のAPC価格について、2023年2月覚書条項「Author Fees年度毎見直し」に基づき、出版社より、インフレによるコスト増の影響等から、APC価格(現状：会員700\$→729\$、非会員C：2314\$→2430\$)の見直しの提案があったことが報告された。まずは、影響学会の意見を確認すること、値上の場合でも、覚書の「毎年の値上げ検討」部分を見直し、2-3年会員価格は据え置きをお願いする等出版社へ申し入れるのはいかがでしょうか等の意見が提案された。

報告事項

1. 理事長・専務理事職務状況報告

(宇野理事長 / 溝脇専務理事)

現在までの業務状況・活動報告がなされた。

2. 財務・総務委員会報告 (溝脇専務理事)

- 2024年度は新規予算申請を原則1回(申請締切：～2024年5月27日)で予定している旨が説明された。
- 米国ViewRay社 倒産に伴う国内MRIidianユーザーへの影響について
2023年10月JASTRO理事会にて、国内販売会社等を通して更に情報収集・検討していくことになった標題の件について、その後、引継ぎ先の新会社が決まり、日本でのメンテナンスは1社に集約される旨を国内販売会社(伊藤忠商事)から報告を受けたことが説明された。

3. 選挙管理委員会報告：2024・2025年度代議員選挙公示 (代：宇野理事長)

2024・2025年度代議員選挙公示について、代議員定数は216名(一般枠191名/ダイバーシティ枠：女性20名+物理技術枠5名)であり、選挙日程(4/11-25：立候補、5/21-6/12：WEB投票、

6/13開票)他が2024年3月7日付けにて公示された旨が報告された。

4. がん放射線治療推進委員会報告 (石川理事)

- 2024年第1回委員会(1/23 Web)議事録が提示され、各小委員会の活動が報告された。
- ① 医学生・研修医セミナー：オンライン2024/5/18、オンサイト2024/7/6東京、7/27大阪、医学生向け動画作成、②脊椎SARTハンズオンセミナー6/2、Varian東京③がんプロ養成プラン④放射線治療の需要予測：アンケート実施予定⑤RI内用療法推進：DB委員会と症例登録DB作成検討中⑥男女共同参画・働き方改革：アンケート報告作成済。
- 以下については引き続き検討中である旨説明された。
- ⑦ 医学部における放射線治療教育：教材追加収集の依頼を提出予定、総論の作成、教育講演コンテンツからの編集工程を検討中 ⑧ 少数常勤放射線治療医サポート：症例相談の方法、会員専用ページ内システムを広報委員会と検討中。

5. 緩和的放射線治療委員会報告 (高橋理事)

「好事例集」(64頁)の内容が確定したこと、中医協答申における「がん性疼痛緩和指導管理料：放射線治療と神経ブロックの診療方針等説明に係る評価」の新設、第29回日本緩和医療学会(2024/6/14-15神戸)における「ACTとの共催セミナー」「JASTRO・JSPM合同シンポジウム」実施概要が報告された。

6. ガイドライン委員会報告 (井垣理事)

- 「放射線治療計画ガイドライン2024」作成進捗について、パブコメ実施(2024/1-2)の結果が報告された。
- 「造血細胞移植の前処置としての全身照射の診療ガイドライン(仮)」について、JROSG悪性リンパ腫・血液腫瘍委員会より、当会GL委員会の査読、HPへの公表等協力依頼が報告された。
- 「放射線治療計画ガイドライン2020」モニタリングアンケート結果まとめ(78頁)が事前配布・回覧され、学会ホームページで公表する旨報告された。
- 日本脳腫瘍学会から「脳腫瘍ガイドライン」の成人脳腫瘍3分野の部分改訂が行われた旨(第3版)の連絡があり承認した旨が報告された。

7. 教育委員会報告 (内田理事)

当会監修の「やさしくわかる放射線治療学(改訂第2版)」が2月末に発刊された旨、報告された。

8. 国際委員会報告 (青山理事)

- Asian Oncology Society(AOS)理事長、癌治療学会理事長より、2026年日本大会への共催依頼があり、会議等への代表者参加、プログラム委員、演題登録への協力を行う旨、回答したことが報告された。
- ESTRO meets Asia 2024(Joint FARO-ESTRO Congress, Malaysia, Aug 23-

25)、ESTRO Annual Meeting(Glasgow, May5/2024)の学会ブース設置について、初めてであるが、申込を行い(無償、1 table/2 chairs)、準備を進める旨が報告された。

9. 放射線治療専門医制度委員会報告 (古平理事)

- 放射線治療(放治)専門医修了要件について、治療研修プログラム統括責任者、機構認定放治専門医試験受験予定者に対して、2月に改めてお知らせが送付されたが、講習会受講、研修で求められる症例等研修内容を確認し、3/31の研修終了後4/18までに、統括責任者より申請する旨(ストレージサーバーへUP)依頼していること、またサブスペの更新についてもJASTRO大会の単位UP等を含め検討中である旨が説明された。
- JRS総合修練機関施設基準について、JRS専門医制度委員会WG会議において、修練機関施設基準の改訂案検討が行われ、総合修練機関IMRT実施基準について、定位放射線治療又はIMRT20件を目標とする、常勤治療専門医1名(治療専門医2名が望ましい)を推奨とする等検討中であることが報告された。

10. 小線源部会報告 (大野理事)

第2回小線源治療ハンズオンセミナー(2023/10/14、順天堂医院、村上直也世話人/参加:10施設29名)の会計収支決算書が報告された。[学会への返金あり]

11. 広報委員会報告：放射線治療PR事業進捗

(岡嶋理事)

- がん放治推進委員会：少数常勤放射線治療医サポートWGにて検討を進めている「症例相談事業」について、当会会員専用ページに「症例相談窓口」サイトを新設する案を検討している旨報告された。
- 放射線治療PR事業「リクルート動画作成」について、制作協力(委託)会社を決定し、動画3本(各4分)と既存の動画「放射線腫瘍医になろう」の更新の計4本の作成を進めている旨報告された。
- 放射線治療PR事業「市民公開講座開催」について、現地の聴衆を募集し、講義+がん治療経験者にご登壇いただく方向で、制作協力(委託)会社、日程(7月)、会場予約を進めている旨報告された。
- 放射線治療PR事業「放射線治療を題材にしたコミック」について、最終の冊子案が回覧され、今月中を目途に完成の予定である旨報告された。今後は新聞上でのタイアップ広告やXでの周知を進めていく旨確認された。

12. 渉外・関連学会委員会報告 (佐々木理事)

日本放射線影響学会(JRRS)との合同シンポについて、覚書に基づき、JRRS 2024年第67回学術大会(2024/9/25~28、北九州/テーマ：重粒子治療とFLASH/オーガナイザー：大栗隆行会員、J座長：塩山善之 会員、演者：皆巳和賢 会員、吉田由香里 会員、松延亮 会員、松本孔貴 会員)にて、合同企画の準備を進めている旨報告された。

13. 学術委員会報告 (村上理事)

2024・2025 年度研究課題の応募状況（公募期間：2023/12/25～2024/3/5）について、計18題（基礎：8題、臨床：10題）の応募があり過去最多であった旨報告された。細則では基礎と臨床で最大3題となっているが、採択数を増やすかは研究課題の内容によって検討する旨が確認された。

14. 健保員会報告 (大西理事)

2024年診療報酬改定について、当会提案（未収載2件、既収載17件内 評価外1）の内5件（採用率27.8%）が承認される見込みであること、また「がん性疼痛緩和指導管理加算：放射線治療と神経ブロックの診療方針等説明に係る評価」新設、「外来・在宅ベースアップ評価料：外来放射線照射診療科算定（再診時）」新設、「介護保険施設等：外来放射線照射診療科」算定可、「一般病棟用重症度、医療・看護必要度：モニタリング・処置/放射線治療」評価項目見直し等が説明された。

15. 賞等推薦委員会報告 (有賀理事)

日本学術振興会賞受賞候補者（2024年度）の推薦依頼があった旨が説明され、適任者がいる場合には（特に、女性候補者）ご推薦いただくよう周知がなされた。なお候補者があった場合には、賞等推薦委員会にて推薦の可否を審議する旨確認された。

その他報告事項

1. 日本医師会・JASTRO・JAWRO 共催

企画講演の実施報告 (内田理事)

日本医師会女性支援センター助成事業により、JASTRO第36回学術大会にて「日本女性放射線腫瘍医の会 特別企画」（日本医師会・JASTRO・JAWRO共催）プログラム実施報告がなされ（2023/12/1、テーマ「放射線治療分野における男女共同参画・ダイバーシティの現状」、演者：Ritsuko Komaki先生 溝脇尚志理事/現地参加80名・オンデマンド視聴：229/領域講習1単位）、医師会から助成を受けた旨報告された。

2. 日本放射線研究連合（JARR）からの報告

(石川理事)

JARR幹事会が開催され、今年度役員を選出（（会長：島田義也先生、副会長：三浦雅彦会員/高橋憲司先生（放射線化学会）、庶務監事：飯塚大輔先生（JRRS）、監事：石川仁会員、原田浩先生（JRRS））が行われた旨報告された。